

# 共進化実現プログラム（第IIIフェーズ） に向けた取組と設計について

## 令和4年度 SciREXセンターでの調査結果 (ARIリスト化試行)

SciREXセンター  
研究プロジェクト  
「STI政策における研究と政策形成の共進化の  
体制・方法の在り方の検討」

EY新日本有限責任監査法人の協力得て実施しています。

# プロジェクトの概要

SciREX事業の取り組みを総括するとともに、事業終了後もSTI政策におけるEBPMの推進が図られるような仕組みの提案に向けて、令和3年度に研究プロジェクトを発足。

## 【目的】

- 新たな文脈（政策のアジャイル化やTransdisciplinary的な発想への転換など）の中での「共進化」の有効な方法論やアプローチを再検討、理論化・体系化。
  - 共進化に類似する概念・知見の整理
  - 国内外のEBPM推進の状況や体制・課題等に関する調査
- 共進化実現プログラム（第IIIフェーズ）の設計・運営への提案
  - <短期的視点>
    - 第Iフェーズの追跡調査実施・分析支援
    - 共創型プロジェクトの発足プロセスの改善に向けた手法の開発・試行（ARIリスト化試行）
- SciREX事業終了後の、科学的アプローチに基づくSTI政策研究・政策形成の在り方
  - <長期的視点>

# ARI (Area of Research Interest; 研究関心領域) のリスト化試行

# SciREX研究プロジェクト/プログラムの変遷

種類	期間	概要	メモ
旧重点 課題PJ	FY2016- FY2018	第5期科学技術基本計画で提示された課題に対して、拠点が連携して取り組む研究プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>メタな課題から研究者が中心となって課題を設定。</li> <li>PJ発足当初は行政官の参画を心掛けていたが、制度的に継続的な関与は要求せず。</li> <li>シーズプッシュ、リニアモデル的</li> <li>センターには産学連携コーディネーター的な役割を期待</li> </ul>
共進化 第1	FY2019- FY2020	国の具体的な政策課題に基づいて、政策担当者と研究者とが対話をしながら研究課題を設定し、共に研究を進める研究プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政担当者・担当課室のニーズに対して研究者が提案。</li> <li>行政官の参画を制度的に要求。</li> <li>ニーズプル、共創型への転換（出発点は行政ニーズのみ）</li> <li>拠点関係者中心。</li> <li>プログラム事務局は文部科学省のみ</li> </ul>
共進化 第2	FY2021- FY2022	国の具体的な政策課題に基づいて、政策担当者と研究者とが対話をしながら研究課題を設定し、共に研究を進める研究プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1フェーズを基本的に踏襲。</li> <li>関与者の拡大：局課の枠の拡大（研究3局以外）、NISTEPの参画</li> <li>準備ステージの制度的変更（実現ステージに向けた準備）</li> <li>担当アドバイザー制の導入</li> <li>プログラム事務局としてセンターも関与</li> </ul>
共進化 第3	FY2023- FY2025	どのような方針・デザインにするか？	

# (参考) 英国BEIS 2019-2020におけるARI

政策領域	PIタイトル	エビデンスギャップ	鍵となるリサーチクエスチョン	開始時期	期間	潜在的な契約者からの期待される要請
STI	大学起業ゾーン最終評価	中間評価のプロセスとは異なり、インパクトに焦点を当てたエビデンス	大学起業ゾーンによってハイテク・研究開発注力エリアにおけるアカデミック研究の商業化のインパクトは何だったか？	2019/20冬	5年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間のモニタリング報告書・テナントへのサーベイ</li> <li>比較のための反事実的分析と回帰分析</li> </ul>
STI	文献レビュー：オープンサイエンスのインパクトの理解	オープンサイエンスの社会的・経済的インパクトとその目的達成のための障壁やリスクについて	鍵となるリサーチクエスチョンはレビューを通じて導き出される	2019/20冬	1年間	文献レビュースキル
STI	英国におけるインキュベーターとアクセラレーターのインパクト	インパクトが何だったかを確立するために英国のインキュベーターとアクセラレーターの所期のディレクトリからエビデンスを構築	インキュベーターやアクセラレーターが支援するスタートアップのインパクトや英国に存在する幅広いビジネスエコシステムは何だったか？	2019/20冬	2年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>回帰不連続デザイン、スタートアップビジネス、アクセラレーター、インキュベーターのサーベイ</li> <li>変化の理論 (ToC) についての知識</li> </ul>
STI	グローバルチャレンジ研究助成 (GCRF) : 最終評価	どのようにGCRFは先端研究やキャパシティ・ビルディングを通じてグローバルチャレンジに取り組む国連SDGsを達成することに貢献してきたか	GCRFは有意義で、公平で、目標は適切で、管理されているか？ GCRFの投資はどのように機能し、何が達成されたか？ GCRFの生み出した、もしくは貢献したアウトカムは何か？	2019/20冬	5年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価、質的・量的スキル</li> <li>海外開発援助 (ODA)、研究・イノベーションの経験</li> </ul>
STI	STEMインスピレーションプログラムに関するより堅牢なエビデンス	CREST awardsやSTEMアンバサダー・プログラムのようなSTEMインスピレーションプログラムのインパクトは決定的に計測することが困難	望ましい成果 (STEM科目への信頼、取り込み) に対するSTEMインスピレーションプログラムのインパクトは何か？ 最も有効なSTEMインスピレーション活動は何か？	2019/20冬	3年間	評価、質的・量的スキル

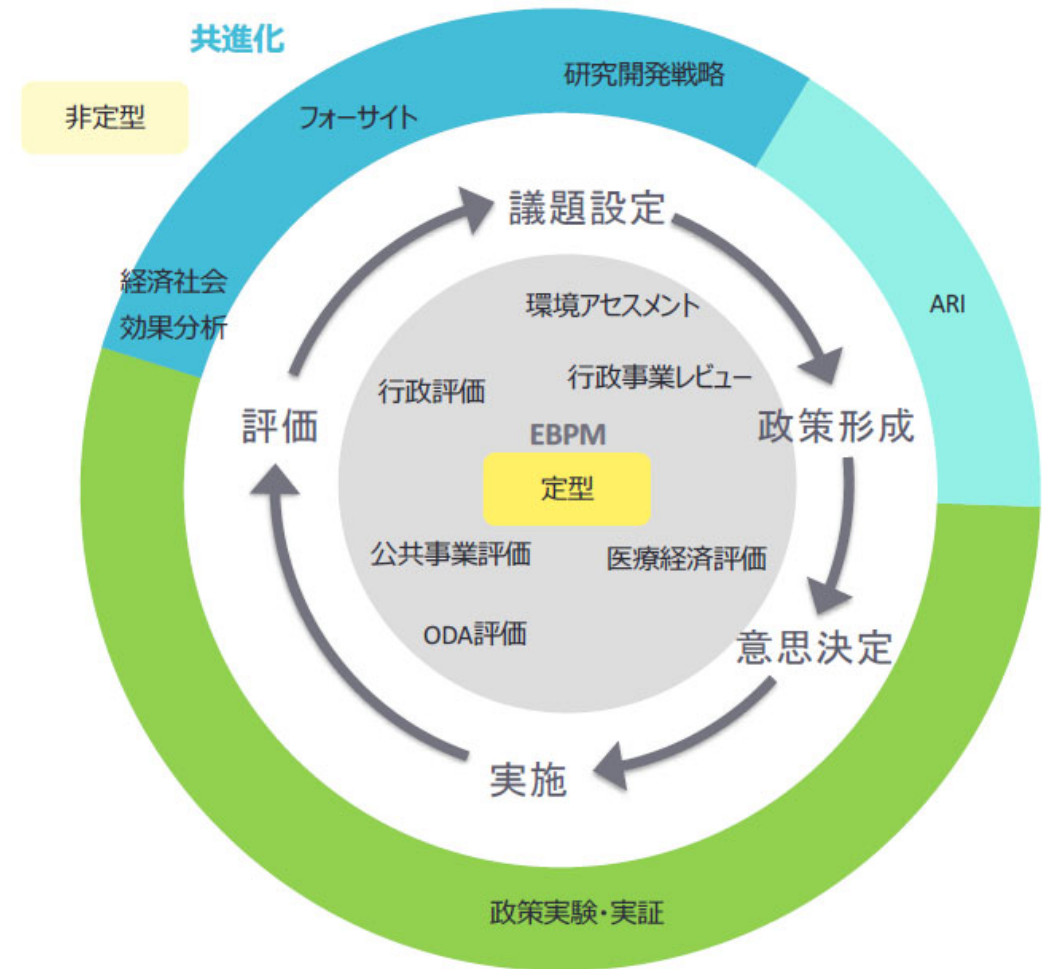
これらのほかに、長期のリサーチクエスチョンが箇条書きされている

出所) BEIS(2020)

BEIS : ビジネス・エネルギー・産業戦略省

# 問い

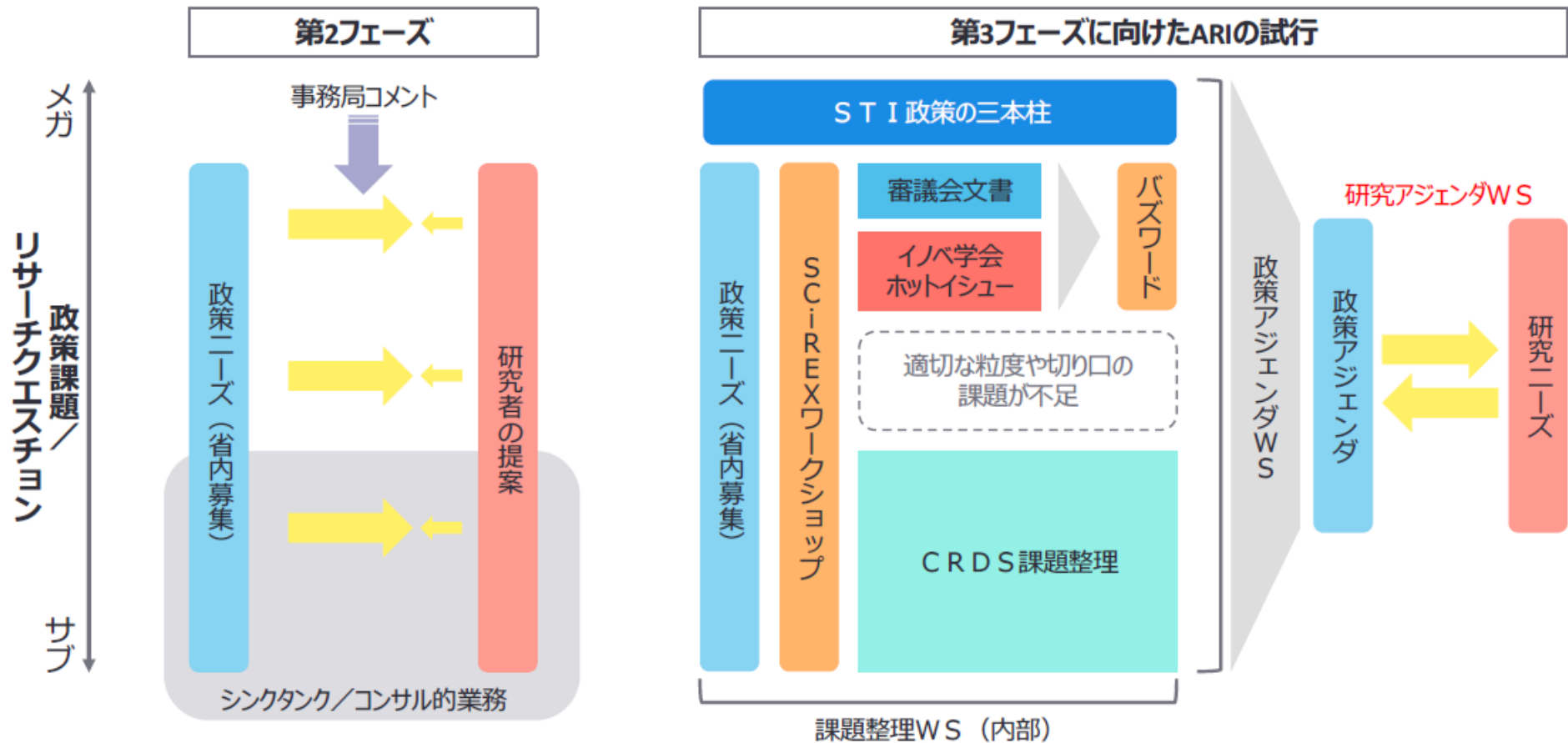
- 日本においてARIのリスト化・公開が、よりよい政策形成や実施、政策効果の実証に資する政策研究プロジェクトの発足に有効ではないか？
- 政策担当者と研究者との連携による研究プロジェクトの発足プロセスを改善できないか？



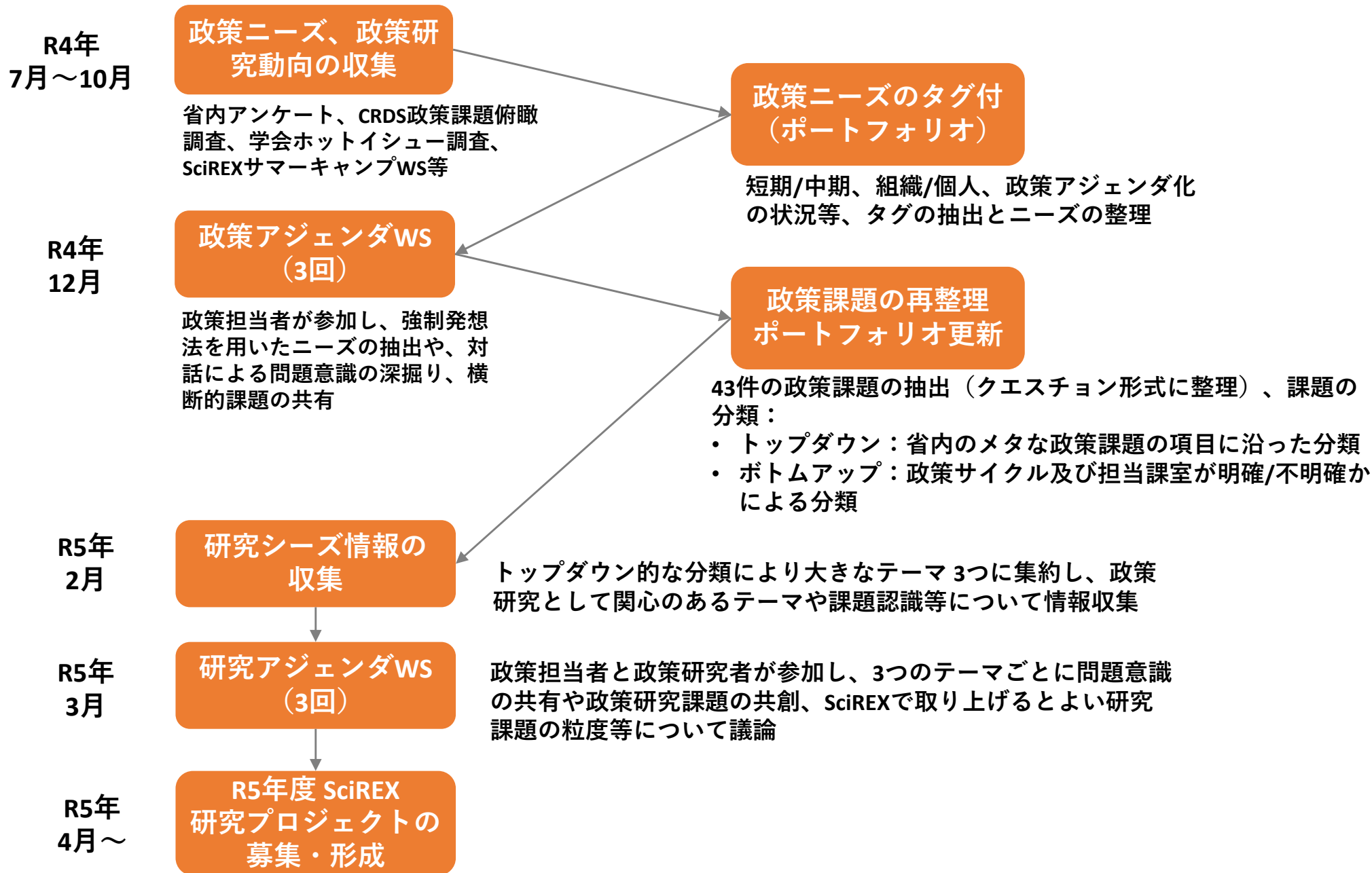
出所：Parsons (1995), Jann & Wegrich (2007)を基に作成

# ARI作成の意義

- 第Ⅰ・Ⅱフェーズは政策ニーズに合わせた研究を提案するという、ほぼ一方向的なやり方。また、委託調査レベルのニーズも混在。
- ARIの試行では、省内募集の政策ニーズ限らず、メガからサブまで多様な粒度の政策課題を幅広いリソースから収集してリサーチクエスチョン化するとともに、ポートフォリオ化やワークショップ等を通じて適切な粒度のアジェンダ抽出を意図する。



# ARI作成プロセス





# 政策ニーズ・政策研究動向の収集①

## 省内アンケート

- 計9件 (8/31〆切)
  - 担当課室：1課室 (2)
  - 個人：政策リエゾン (2) , その他 (5)

研究者と連携したEBPMの推進に係る省内ニーズ調査(課室用)

### 【概要】

SciREX事業ではEBPMの実現に向けて研究者と行政官の共進化に向け取り組みを実施しており、2019年度(平成31/令和元年度)にはそれまでの研究開発の取組をさらに進めるため、共進化実現プログラムを発足しました(令和元年～2年度・第一フェーズ、令和3年～4年度・第二フェーズの研究を実施)。

令和3年度から実施するSciREX事業第3期(令和7年度が最終年度)においては、終了後も科学技術イノベーション政策におけるEBPMの推進が図られる体制や政策コミュニティ、人材育成、活用の在り方、データ基盤整備等についての総括や提案を行っていくこととしています。

つきましては、省内の各課室等が政策研究者と協働で取り組みたいと考える政策ニーズに関するアンケートを実施いたします。

課室名

研究開発戦略課

課室としてのニーズ

新しく取り組む〇〇の施策によって□□にどのような影響を与えるかを定量的に知りたい。

背景となる問題意識

一般論として△△が□□を向上させるうえで必要であると有識者からご意見をいただいているが、政策効果を実証するためにどのような事業設計が望ましいか、またモニタリングしていく上で有用な指標の設定等に悩んでいる。因果を明らかにするためのエビデンスが必要。

※調査結果はSciREX事業・共進化PGの運営の参考とします。

※本調査に回答いただいたことで追加の作業は発生しません。一部の課には追加のインタビュー等をお願いする可能性があります但し強制するものではありません。

# 政策ニーズ・政策研究動向の収集②

## 学会ホットイシュー

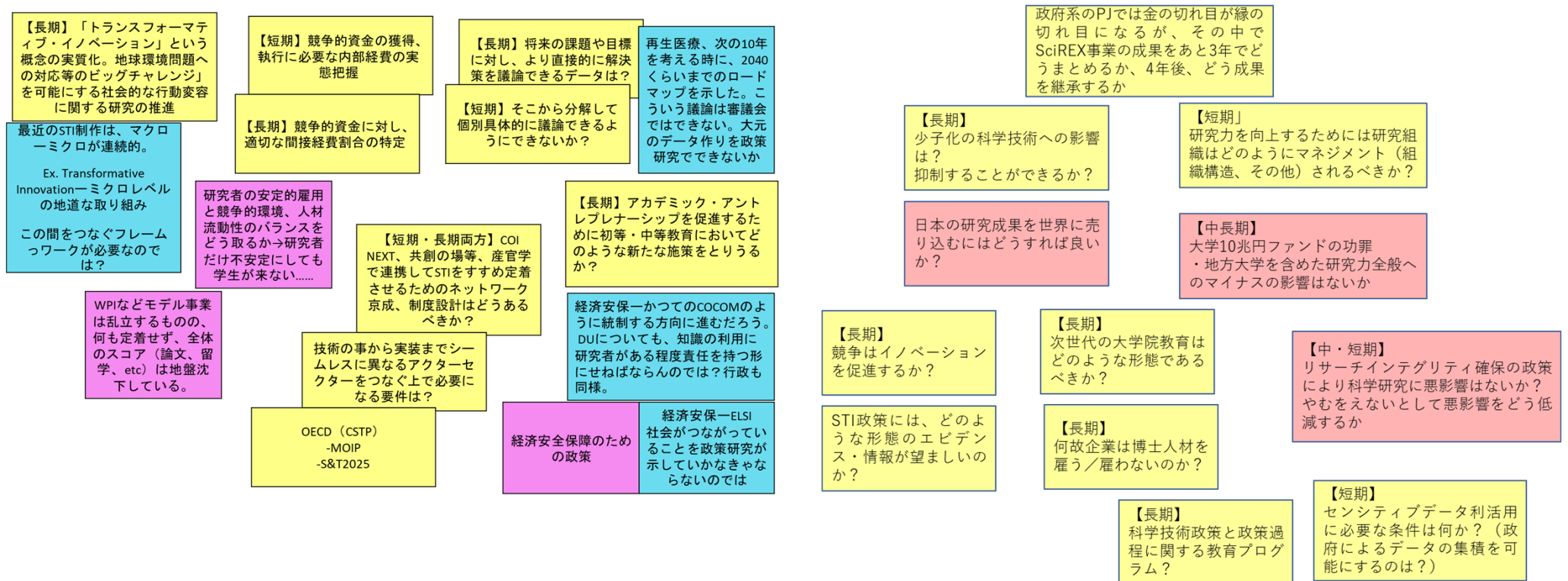
- 研究・イノベーション学会のホットイシュー
  - 2018年～2022年分、36件収集

地域創生に資する人材の育成	大学等における知の基盤の未来	今後求められる教育・人材育成の在り方および教育DXの方向性	ポストシンギュラリティ：先端科学技術の研究開発での現状・課題・提言	スタートアップと大学・企業	EBPMに向けた科学技術イノベーション指標
Web3時代におけるビジネスおよび研究のDX	脱炭素に向けた日本のイノベーション	研究評価の新展開	ポストコロナでの産学連携の未来	STI for SDGs (Science, Technology, and Innovation for Sustainable Development Goals) — 科学技術イノベーションによる持続可能な開発目標の達成	エビデンスに基づく大学・研究機関の経営・リサーチアドミニストレーション
エビデンスに基づく科学技術政策の展開	Withコロナの経済回復に地域資源の活用で挑戦する	国家目標達成に向けた研究開発分野設定	スーパーシティ構想の社会実装に向けた政策戦略と地方創生	モビリティのサービス化	新技術による社会変革と規制、リスク・コミュニケーション
大学工学部への女子進学者が少ないのは何故か？	カーボンニュートラル時代の循環経済とイノベーション	地方企業の海外展開と地域創生	エマージング・テクノロジーの社会実装に向けた政策戦略と対話	科学技術イノベーション政策の現状と課題—次期科学技術基本計画の策定に向けて—	AI、ビッグデータ時代の戦略
不確実な環境における新たなイノベーションマネジメント	イノベーション・エコシステム形成のための人材育成・価値共創の推進	危険発生時の科学的助言・科学コミュニケーション—将来の危機対策へ—	新たな科学技術領域と研究開発戦略	研究基盤改革の最先端—研究力を向上させるハード（施設・設備）とソフト（人材・システム）—	参加型イノベーションの新潮流
「総合知」によるイノベーション創出	大学等における研究環境変革の現在と未来	研究基盤における人材・資金・環境の三位一体改革の将来像—「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」の実現に向けて	わが国の研究開発人材の現状の把握および未来に向けた戦略—グローバル人材活用・学び直し（n型人材）・流動化—	中小企業におけるイノベーションと地域創生	SDGs (Sustainable Development Goals) : 持続可能な開発目標) * 年次シンポジウム連動企画

# 政策ニーズ・政策研究動向の収集③

## SciREXサマーキャンプ教職員セッション

- SciREX教職員（研究者）が6グループに分かれて、政策研究としてとりあげるべき課題について議論（9/4）



# 政策ニーズ・政策研究動向の収集④

## JST-CRDSによる課題整理

- 政策課題俯瞰調査（進行中）の成果を参考
  - 6領域：評価、人材、研究基盤整備、研究開発制度、知的財産・標準化、地域振興・産学連携

### 「人材育成と確保」分野の政策課題の抽出・整理 (9/20案)



### 研究基盤整備に関する課題

**背景**

- 研究資金の減少→先端装置が購入できない→研究成果が出にくい→研究資金の減少→・・・の悪循環

**(ハードウェア設備等について)**

**大学等が抱える課題**

- 先端計測装置等が高額化し、購入・利用できない
- 装置を扱う専門技術員が不足
- 依然として装置共用化が進まず
  - 研究設備・機器の共用化に向けたガイドラインを作成
- 設備共用の利点について現場の理解を深めるとともに、研究者/組織の両方にとってより細かいインセンティブ設計が必要

**企業等を含む全体に係わる課題**

- 外国装置に頼っているため、先端技術競争に遅れをとりがち
- 市場規模、資金の不足
- 外国の先端装置や材料、知財の買い込みのリスクも考慮しておく必要がある (経済安全保障)
- 研究者/組織の開発エングジネアの実践事例を増やしてゆく必要がある
- 外国の先端装置や材料、知財の買い込みのリスクも考慮しておく必要がある (経済安全保障)

**(知識共有の環境等について)**

**大学等が抱える課題**

- オープンアクセス(OA)の拡大にともなう論文投稿・読書の負担増(ジャーナル問題)
  - 学費を使った場合のOA化の促進、国際的なプラットフォームの構築、転換契約の促進等の施策
- 論文だけでなく、多面的、長期的な視点から研究成果を見ていくような研究方法の議論が必要ではないか
- 粗悪雑誌(ハグタカジャーナル)への投稿による質低下
  - IF等に左右されない評価のあり方やプレプリント等の新しい公開方法の議論
- 論文だけでなく、多面的、長期的な視点から研究成果を見ていくような研究方法の議論が必要ではないか

**全体に係わる課題**

- オープンサイエンスに向けたデータポリシーやデータ基盤がない
  - 研究データ基盤システム(NII RDC)の構築
- データ基盤やデータポリシーの周知をおこなうとともに、蓄積データの有効活用を促進すべきではないか

CRDS (→当面の解決策 ◆なお残された課題)

### 地域振興・産学官連携

課題認識と新たな施策

**全体に係わる課題**

- 18歳人口の減少率大
- 地域の雇用機会が少ない
- ⇒ 規定路線を打ち破る構造改革が不可欠

**地域の大学が抱える課題**

- 地元の大学を選ばず、県外に流出
- 大学発ベンチャーの創出は少ない

**特定大学が抱える課題**

- 上位に続く層の大学から輩出される論文数が、海外と比べて少ない
- ⇒ 上位に続く大学の層の厚みが形成されるよう、特色ある強みを伸ばす施策の展開が必要

**大学と地域が抱える課題**

- 大学と地域を繋ぐ人材・組織の問題
- 大学内部における社会貢献の評価の低さや大学と地域を繋ぐ仕組みの欠如、人材の不足

**関連事業に係わる課題**

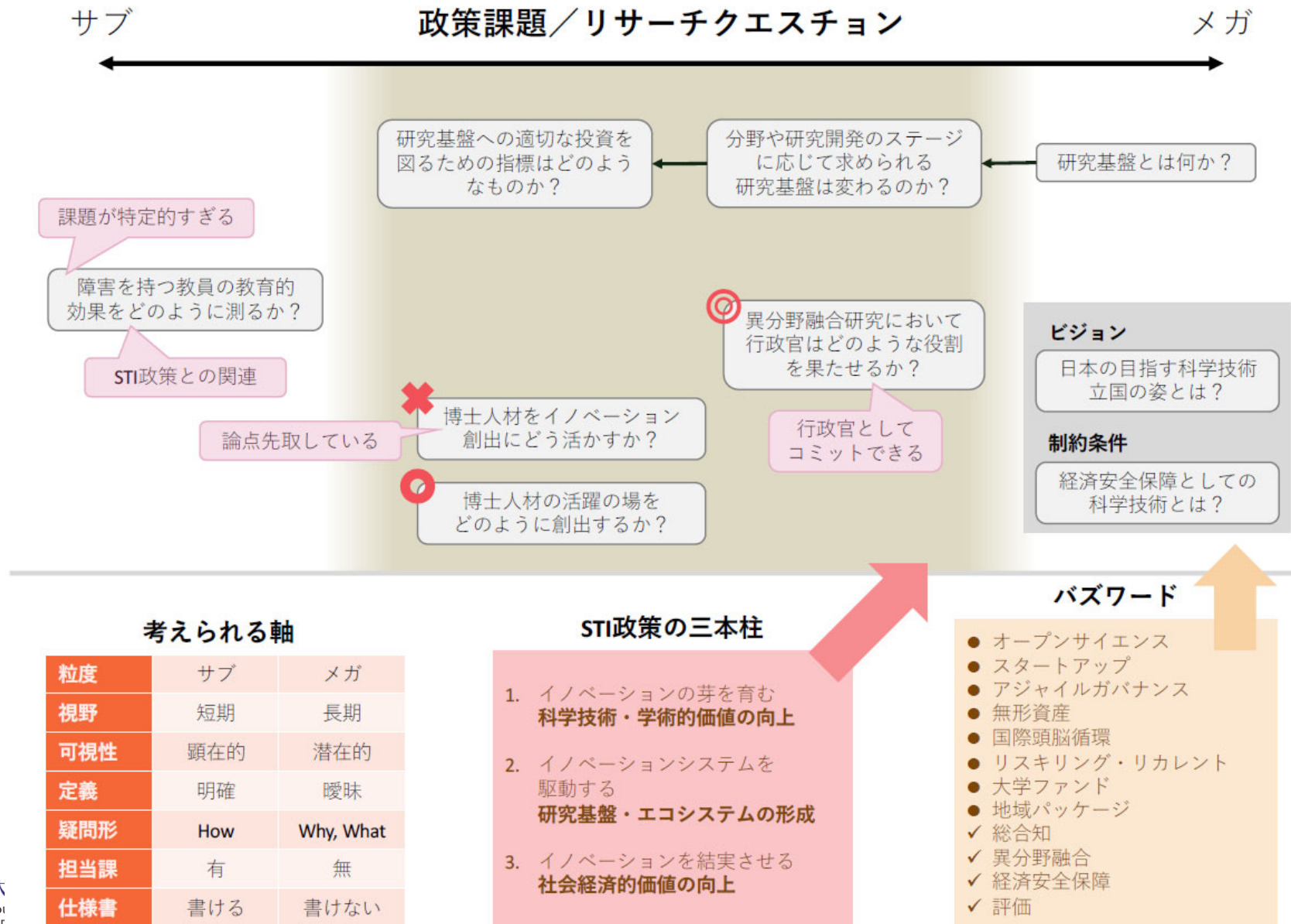
- 施策を各府省が展開しているものの、現場の大学目線に立って連携・接続が出来ていない

**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ**

- ① 大学自身の取組の強化
- ② 繋ぐ仕組みの強化
- ③ 地域社会における大学の活躍の促進

# 政策ニーズのタグ付け（ポートフォリオ化）

- 収集した政策ニーズ・研究動向を参照しながら、課題整理の軸と、共進化に向けて掘り起こすべき政策ニーズの適切な粒度を検討



# 政策アジェンダWS

---

- 目的：政策ニーズの抽出と問題意識の深掘り及び研究アジェンダWSに向けたアジェンダ創出
- 概要：SciREX事業に関わる行政官を対象に、90分のWSをオンラインで2回開催。
  - 第1回（12/13）：7名
  - 第2回（12/22）：14名
- 方法：強制発想法に基づき、マトリクスを埋めるようにできるだけ多様な政策ニーズを考えだしてもらう。
  - 横軸：CRDS政策俯瞰調査の項目に沿った「政策領域」
  - 縦軸：政策サイクルにおける4つの「政策の場面」（政策フェーズ）

# 政策アジェンダWSの結果

個別の政策領域（所掌）や場面を超えた議論にも発展

政策領域	A 人材育成	B 産学官連携	C 地域振興	D 知的財産・標準化	E 研究基盤整備	F 研究開発資金 基盤的競争的	G 国際活動	H 科学技術と社会	I その他
政策の場面									
1 何が問題かを考える 議題設定	A1 博士人材活躍の場をどのように創出するか？  若手研究者に魅力を感じてもらうために日本の研究機関に足りないものは何か？	B1 アカデミック研究者と企業とのニーズ差を解消するためどのような取組が ありうるか？	C1 現代において距離的な近接性に伴う産学連携の優位性を活かした地域振興はどのようにありうるか？  大学が中核として果たすべき機能とは何か？	D1 政府の所有するデータの公共的な利用はどのようにあるべきか？	E1 高額な共用研究設備は全国的にどのように均衡を保って整備しうるか？  基盤的経費の必要性や妥当性はどのように理解を得ることができるか？	F1 戦略策定の基盤構築におけるステークホルダーの期待や共感、納得とは何か？	G1 トップダウンの議題設定に対して文科省としてどのように議題を調整できるか？  どのようなフレーミングによって国際活動を展開していくべきか？	H1 中長期的な研究トレンドをどのように測定するか？  需要側からの科学技術政策の実現に向けてどのように国民のニーズやウォンツを把握するか？	I1 政府関係者間における課題のすり合わせを果たすための専門家やつなぎ人材はどうあるべきか？
2 望ましい手段を考え決定する 政策形成・意思決定	A2 アカデミックアントレプレナーシップ促進のために初等・中等教育でできることは何か？  研究者に限らず、雇用制度や移民制度の効果はどの程度あるのか？	B2	C2 地域における高等教育機関の適切な規模はどのくらいか？	D2	E2 各分野領域における主要な指標はどのようなものか？  基盤の種類によって費用対効果の算出は異なるか？	F2 社会課題に基づくミッション志向の研究開発の妥当性をいかに向上できるか？  トップダウン/ボトムアップの資金配分のバランスはどうあるべきか？	G2	H2 科学技術への政府投資にかかる社会的理解を深めるために経済モデルを活用できるか？	I2 科学的と政策的エビデンスのずれをどのように認識しすり合わせられるか？  どのようなロジックであれば産業界を研究開発や人材育成への先行投資に導けるか？
3 決定した手段を実施する 政策実施	A3	B3 起業促進など省内や関係機関にノウハウがないときにどのように対応すればよいか？	C4	D3	E3 異分野融合研究において行政官はどのような役割を果たせるか？  オープンサイエンスやデータ駆動サイエンスに必要なインフラや担い手はどの程度か？	F3 ファンディングにおける社会インパクトはどのように測定しうるか？	G3 合意した国際プロジェクトを実行するためにどのように国内体制や予算を確保しうるか？	H3	I3 政策実施における教訓を共有する属人的でない仕組みはどのようなものがあるか？
4 振り返り次に活かす 政策実証・評価	A4 障害を持つ教員の教育的効果をどのように測るか？	B4 開発した技術を早期に実装するために必要な省庁間の連携体制はどのようなものか？	C4 大学ファンドは地方大学や研究力強化にどのような影響を与えるか？  大学の地域振興への貢献度はどのように定量化して計測しうるか？	D4 研究機関において知財マネジメントはどのように取り組まれているか？	E4 研究基盤への適切な投資を図るための指標はどのようなものか？  技術スタッフはどのように評価しうるか？	F4 研究開発プログラムの影響や効果測定における適切な指標とは何か？	G4 外交活動と科学技術の相互の影響をどのように測定できるか？	H4 総合知の活用を把握するための指標はどのようなものか？  コロナ対策の政策はどのように評価すればよかったのか？	I4 担当者や被評価者の認識のギャップは何か？  政策プロセスに参考となる知識や情報へのアクセス手段はどのような形が望ましいか？

※凡例 省内政策ニーズアンケート 政策アジェンダWS その他のリソース

# 政策課題の再整理・ポートフォリオ化

---

- これまでに得られた43件の政策課題を2通りに整理。
  - ① トップダウン（現在の省内のメタな政策課題に沿った設定）
    1. 「第11期科学技術・学術審議会を締めくくるにあたっての会長所感」（令和4年12月）の5項目に沿った整理
    2. 太字は所感に準じた政策課題、赤字は政策実現のための情報・知識、仕組み・体制などメタな政策課題を表す
  - ② ボトムアップ（第Ⅲフェーズを意識した共創的/相互学習的な設定）
    1. 担当課室が明確な政策課題と、担当課室が不明確だったり、府省横断的な課題に分ける
    2. 共進化PJの新たな展開に向けて、「2. 望ましい手段を考え決定する（政策形成・意思決定）」と、政策実験的な取り組みを可能とする「3. 決定した手段を実施する（政策実施）」の課題に分ける
    3. 1と2のマトリクスを作成して、政策ニーズを分類



# 政策課題の再整理・ポートフォリオ化

## ① トップダウン

メガ項目	政策ニーズ（リサーチクエストの形式）	
若手研究者支援、国際頭脳循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 博士人材活躍の場をどのように創出するか？</li> <li>• 若手研究者に魅力を感じてもらうために日本の研究機関に足りないものは何か？</li> <li>• 研究者に限らず、雇用制度や移民制度の効果はどの程度あるのか？</li> <li>• アカデミック研究者と企業とのニーズ差を解消するためにどのような取組があるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アカデミックアントレプレナーシップ促進のために初等・中等教育でできることは何か？</li> <li>• 起業促進など省内や関係機関にノウハウがないときにどのように対応すればよいか？</li> </ul>
大学の研究力強化・社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大学が中核として果たすべき機能とは何か？</li> <li>• 大学の地域振興への貢献度はどのように定量化して計測するか？</li> <li>• 地域における高等教育機関の適切な規模はどのくらいか？</li> <li>• 大学ファンドは地方大学や研究力強化にどのような影響を与えるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現代において距離的な近接性に伴う産学連携の優位性を活かした地域振興はどのようにありうるか？</li> <li>• 研究機関において知財マネジメントはどのように取り組まれているか？</li> </ul>
EBPM、学問分野の専門分化・小規模化への対応、分野別の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中長期的な研究トレンドをどのように測定するか？</li> <li>• 科学的と政策的エビデンスのずれをどのように認識しすり合わせられるか？</li> <li>• ファンディングにおける社会インパクトはどのように測定するか？</li> <li>• 研究開発プログラムの影響や効果測定における適切な指標とは何か？</li> <li>• どのようなロジックであれば産業界を研究開発や人材育成への先行投資に導けるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 担当者と被評価者の認識のギャップは何か？</li> <li>• 政策プロセスに参考となる知識や情報へのアクセス手段はどのような形が望ましいか？</li> <li>• 政府の所有するデータの公共的な利用はどのようにあるべきか？</li> <li>• 政策実施における教訓を共有する属人的でない仕組みはどのようなものがありうるか？</li> </ul>
全国的な観点からの学術研究基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高額な共用研究設備は全国的にどのように均衡を保って整備するか？</li> <li>• 基盤的経費の必要性や妥当性はどのように理解を得ることができるか？</li> <li>• 研究基盤への適切な投資を図るための指標はどのようなものか？</li> <li>• 基盤の種類によって費用対効果の算出は異なるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各分野領域における主要な指標はどのようなものか？</li> <li>• オープンサイエンスやデータ駆動サイエンスに必要なインフラや担い手はどの程度か？</li> <li>• 技術スタッフはどのように評価するか？</li> </ul>
総合知による促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 総合知の活用を把握するための指標はどのようなものか？</li> <li>• 需要側からの科学技術政策の実現に向けてどのように国民のニーズやウォンツを把握するか？</li> <li>• 戦略策定の基盤構築におけるステークホルダーの期待や共感、納得とは何か？</li> <li>• 社会課題に基づくミッション志向の研究開発の妥当性をいかに向上できるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 科学技術への政府投資にかかる社会的理解を深めるために経済モデルを活用できるか？</li> <li>• コロナ対策の政策はどのように評価すればよかったのか？</li> <li>• 異分野融合研究において行政官はどのような役割を果たせるか？</li> <li>• 政府関係者間における課題のすり合わせを果たすための専門家やつなぎ人材はどうあるべきか？</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• トップダウン/ボトムアップの資金配分のバランスはどうあるべきか？</li> <li>• 障害を持つ教員の教育的効果をどのように測るか？</li> <li>• トップダウンの議題設定に対して文科省としてどのように議題を調整できるか？</li> <li>• どのようなフレーミングによって国際活動を展開していくべきか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 合意した国際プロジェクトを実行するためにどのように国内体制や予算を確保するか？</li> <li>• 外交活動と科学技術の相互の影響をどのように測定できるか？</li> <li>• 開発した技術を早期に実装するために必要な省庁間の連携体制とはどのようなものか？</li> </ul>

# 政策課題の再整理・ポートフォリオ化

## ②ボトムアップ

	担当課室が明確な課題	担当課室が明確でない／府省横断的な課題
<b>議題設定</b> <b>／政策実証・評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博士人材活躍の場をどのように創出するか？</li> <li>・ 若手研究者に魅力を感じてもらうために日本の研究機関に足りないものは何か？</li> <li>・ アカデミック研究者と企業との二重差を解消するためにどのような取組がありうるか？</li> <li>・ 現代において距離的な近接性に伴う産学連携の優位性を活かした地域振興はどのようにありうるか？</li> <li>・ 大学が中核として果たすべき機能とは何か？</li> <li>・ 大学の地域振興への貢献度はどのように定量化して計測しうるか？</li> <li>・ 大学ファンドは地方大学や研究力強化にどのような影響を与えるか？</li> <li>・ 中長期的な研究トレンドをどのように測定するか？</li> <li>・ 研究機関において知財マネジメントはどのように取り組まれているか？</li> <li>・ 研究開発プログラムの影響や効果測定における適切な指標とは何か？</li> <li>・ 高額な共用研究設備は全国的にどのように均衡を保って整備しうるか？</li> <li>・ 基盤的経費の必要性や妥当性はどのように理解を得ることができるか？</li> <li>・ 研究基盤への適切な投資を図るための指標はどのようなものか？</li> <li>・ 技術スタッフはどのように評価しうるか？</li> <li>・ 需要側からの科学技術政策の実現に向けてどのように国民のニーズやウォンツを把握するか？</li> <li>・ 戦略策定の基盤構築におけるステークホルダーの期待や共感、納得とは何か？</li> <li>・ 障害を持つ教員の教育的効果をどのように測るか？</li> <li>・ 担当者と被評価者の認識のギャップは何か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トップダウンの議題設定に対して文科省としてどのように議題を調整できるか？</li> <li>・ どのようなフレーミングによって国際活動を展開していくべきか？</li> <li>・ 外交活動と科学技術の相互の影響をどのように測定できるか？</li> <li>・ コロナ対策の政策はどのように評価すればよかったのか？</li> <li>・ 総合知の活用を把握するための指標はどのようなものか？</li> <li>・ 政策プロセスに参考となる知識や情報へのアクセス手段はどのような形が望ましいか？</li> <li>・ 政府の所有するデータの公共的な利用はどのようにあるべきか？</li> <li>・ 政府関係者間における課題のすり合わせを果たすための専門家やつなぎ人材はどうあるべきか？</li> <li>・ 開発した技術を早期に実装するために必要な省庁間の連携体制とはどのようなものか？</li> </ul>
<b>政策形成・意思決定</b> <b>／政策実施</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域における高等教育機関の適切な規模はどのくらいか？</li> <li>・ アカデミックアントレプレナーシップ促進のために初等・中等教育でできることは何か？</li> <li>・ 基盤の種類によって費用対効果の算出は異なるか？</li> <li>・ オープンサイエンスやデータ駆動サイエンスに必要なインフラや担い手はどの程度か？</li> <li>・ 社会課題に基づくミッション志向の研究開発の妥当性をいかに向上できるか？</li> <li>・ トップダウン/ボトムアップの資金配分のバランスはどうあるべきか？</li> <li>・ ファンディングにおける社会インパクトはどのように測定しうるか？</li> <li>・ 起業促進など省内や関係機関にノウハウがないときにどのように対応すればよいか？</li> <li>・ 異分野融合研究において行政官はどのような役割を果たせるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究者に限らず、雇用制度や移民制度の効果はどの程度あるのか？</li> <li>・ 各分野領域における主要な指標はどのようなものか？</li> <li>・ 合意した国際プロジェクトを実行するためにどのように国内体制や予算を確保しうるか？</li> <li>・ 科学技術への政府投資にかかる社会的理解を深めるために経済モデルを活用できるか？</li> <li>・ 科学的と政策的エビデンスのずれをどのように認識しすり合わせられるか？</li> <li>・ どのようなロジックであれば産業界を研究開発や人材育成への先行投資に導けるか？</li> <li>・ 政策実施における教訓を共有する属人的でない仕組みはどのようなものがありうるか？</li> </ul>

# 研究シーズ情報の収集

---

- 文部科学省と協議の上、トップダウンで再整理した政策課題を3つのテーマに集約し、SciREX拠点・関係機関（RISTEX採択プロジェクト研究者含む）を対象に、関心あるテーマや課題認識等の情報をオンラインアンケートで収集
- テーマ名、概要、関連する問いの例をそれぞれ提示
  - 若手研究者支援と研究者の流動性確保
  - 研究基盤整備のための事業ポートフォリオの作成や研究者ネットワークの活用
  - 分野別および分野横断的な政策形成に向けた検討の進め方
  - その他、検討すべきテーマ（あれば）
- 13名の研究者が情報を提供

# 研究アジェンダWS

---

- 目的等：

- 政策アジェンダWS等これまでの結果を踏まえ、政策担当者及び政策研究者がテーマをめぐる課題を共に掘り下げ、共有するとともに、今後研究として明らかにしていくべき／考えていくべき「問い」のアイデアをたくさん出し合う（共創）
- 課題の粒度について検討する
  - ◇ シンクタンク等への委託調査レベルで把握できること（短期）
  - ◇ 研究者と行政官がともに取り組んだらよいと思うこと（中期）
  - ◇ 研究コミュニティとして長期的に取り組むべきこと（長期）

- 概要：

- テーマごとに、3/20, 3/27, 3/28に120分のオンラインWSを開催
- 参加者：各回 行政官4～6名、研究者3～4名